

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	津別町
------	------------

1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（ 3年計画のうち 3年目）

実施主体	市町村名：津別町 民間団体名：地域再生プロジェクト推進協議会		計	市町村 団 体
プロジェクト名：自然を生かした「癒しの空間」によるまちづくりプロジェクト			格差の分野：地域経済の格差	
地域重点プロジェクトとの関連性	<input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<input type="checkbox"/> 地域重点プロジェクト名 地域資源を生かした新たな観光の魅力づくりとプロモーション活動の推進	◆主な取組 ○地域資源を生かした新たな観光の魅力づくり 知床ツーリズムなど体験型慣行の推進 ・ 環境と調和した新たな体験観光メニューの開発 新たな観光資材を活用した観光ルートづくり ・ 体験型、交流型の「ニューツーリズム」の創出に向けた地域連携の促進 地元食材を生かした食の魅力アップ ・ 宿泊施設による地元食材の活用や特産品などの観光消費拡大に向けた仕組みづくり ○ プロモーション活動の推進 オホーツク AI と連動したプロモーションの展開 北海道洞爺湖サミットを契機とした海外への PR 強化 ・ 海外向けの観光ルートなどの観光情報の整備 ・ 海外マスコミ等の招聘事業の実施 外国語パンフレットの作成、英語版ポータルサイトの構築 ・ 観光情報の内容充実	
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	◆ 地域の課題 ・ 津別町は、基幹産業として発展してきた林業・農業などの一次産業の衰退、民間資本によるスキー場の撤退など厳しい経済環境にあることから雇用機会も少なく若人層の流出、少子高齢化の進展に伴い人口の減少に歯止めがかからない状況にある。 ・ こうしたことから、津別町では、行財政改革の取組みによる行財政基盤の強化、基幹産業である林業・農業の育成強化・自然空間を生かした観光振興の取組みによる地域産業の振興と併せて津別町全体の活性化を図っていくことが重要な課題となっている。 ・ 特に町の総面積の 86% を占める森林と上里地区及び沼沢地区（チミケップ湖周辺）の手付かずの森林資源を生かし自然空間を活用した観光の推進として「森林セラピー」事業などの展開により体験・滞在型観光の多様化ニーズに対応した観光客の誘致活動を積極的に展開するため町や関係団体、住民の連携・強化、産業間の連携・人材の育成などのほか、積極的な情報発信により観光と第一次産業の有機的連携を図っていく必要がある。 ◆ プロジェクトの目標			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取組みとしては、阿寒国立公園に隣接する上里地区の原始林などの地域資源をベースとして森林セラピー基地を想定、「癒し空間の活用」をメインとしプロジェクト期限最終年で観光客入込数 18.2 万人、10 年後には現行の 1.5 倍の 27 万人程度を目標とする。 ・ 本プロジェクトの推進と併せて将来は近隣町との地域連携による森林セラピーゾーンを設定し、「散策・自然観察・野鳥・小動物の動体観察・山菜採取体験など」を含めた体験・滞在型観光ヘシフトさせ、森林資源や自然における生態系を直接「見る」「理解」することによって自然環境の大切さなどを認識し、現代人が抱えるストレスを開放させられる環境の整備とその保全を図る。また季節折々の食を提供し、交流人口の裾野の拡大と自然のふれあいの中で地域づくりと町の活性化を図ることを目標とする。
<p>取組の成果</p>	<p>住民等の評価</p> <p>森林セラピーに関して町内外の評価が高まっており、新聞テレビ等でも取り上げられ、プロジェクトに対する期待が高い。</p> <p>また、札幌国際大学より森林セラピーと観光に関する協力を求められ協定を結んだところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成21年度・平成22年度クリンソウまつりにおいて津別町内外から1,000名が訪れ、平成23年度においては、森林セラピー基地認証と併せ、シンポジウム事業やクリンソウフェスティバルを開催し、4,500名が参加し、森林セラピー基地内にある町有宿泊温泉施設において、前年同月対比において、宿泊者数で49%、入浴者数82%、売り上げで40%の大幅な上昇を見せ、その後も昨年対比を上回り認知度が森林セラピーによって高まった。 ・ 森林セラピーについてイベント事業により取組みが各方面より理解されてきた。 <p>計画に対する達成度</p> <p>住民（地域再生プロジェクト推進協議会）との協働により計画は着実に進行している。</p> <p>平成22年度は森林セラピー事業（ガイド養成）により森林セラピーガイドが49人誕生（試験合格者）した。（町民26人、町外23人）</p> <p>また、合格したガイドから、今後継続した事業として推進する事業主体のNPO法人が設立され、今後の活動に期待がされています。</p>

	<p>具体的な効果 森林セラピー基地構想により、一時休館中の町の温泉宿泊施設に新たに指定管理者による運営が具体化された。 又、平成23年4月1日全国43番目の「森林セラピー基地」の認証を得た。</p>	<p>交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況 町の温泉宿泊施設の再開により、観光客の足がもどっており、道の駅「あいおい」においても食の開発により、若者の需要が増えている。</p> <p>交付金支援期間終了時の成果目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験・滞在型観光入込数の増加とふれあい機会の増大 (基準年 13.9万人/H19→目標年 15.5万人/H23) 【平成22年度実績 10.3万人】 ・ 森林セラピー指定による専門的知識者の確保と地域の人材育成の促進 (有資格者 基準年 0人/H19→目標年 3人/H23) 【平成23年度実績 森林セラピーガイド49人内町民26人】 ・ 地場産品の認知度と消費拡大 (地場産品の認知度) ○オーガニック牛乳(基準年 70%/H19→85%/H23) 【平成23年度実績 認知度が高まったとの判断でからアンケート調査実施していない】 ・ 定住型移住者の増加期待 (定住世帯 基準年 1世帯/H19→目標年 3世帯/H23) 【平成23年度実績 3世帯】 ・ 交流人口の増加(ラクビー合宿など)期待 (交流人口 基準年 5,296人/H19→目標年 6,000人/H23) 【平成23年度実績 4,670人】
<p>プロジェクト推進上の課題・問題点</p>	<p>課題点等 森林セラピー基地において保健休養があるが、医療面での連携が不可欠であり地元医療機関との協力を得なければならない。 課題を踏まえた今後の展開 地元医療機関との連携を図り森林セラピーメニューの充実が必要である。 地元医師との連携により「健康セミナー」の開催をはじめ、セラピーガイド組織と連携し進めなければならない。</p>	

2 地域再生プロジェクト構成事業

(1) 実績額について

(単位：千円)

No	事業名 実施主体名	実施期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 要望額	
					国庫補 助金等	道補助 金 等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
							補助金等	委託費				
1	プロジェクト推進事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 23	全体計画	60			60					
			初年度(21)	20			20					
			2年度目(22)	20			20					
			3年度目(23)	20			20					
2	観光人材育成事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 22	全体計画	786			786				786	
			初年度(21)	473			473				473	
			2年度目(22)	313			313				313	
			3年度目(23)	0			0				0	
3	森林セラピー事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 23	全体計画	7,919			2,919	5,000			5,919	
			初年度(21)	1,107			1,107				1,107	
			2年度目(22)	6,076			1,076	5,000			4,076	
			3年度目(23)	736			736				736	
4	津別町の「食」「食加工品」「木工品」開発事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 21	全体計画	5,095			5,095				5,095	
			初年度(21)	5,095			5,095				5,095	
			2年度目(22)									
			3年度目(23)									
5	津別町森林セラピー観光PR事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 23	全体計画	3,434			3,434				3,434	
			初年度(21)	1,799			1,799				1,799	
			2年度目(22)	784			784				784	
			3年度目(23)	851			851				851	
6	イベント・交流事業 地域再生プロジェクト推進協議会	21 5 23	全体計画	1,966			1,966				1,966	
			初年度(21)	526			526				526	
			2年度目(22)	527			527				527	
			3年度目(23)	913			913				913	
計	事業数 [6]		全体計画	19,260			14,260	5,000			17,200	
			初年度(21)	9,020			9,020				9,000	
			2年度目(22)	7,720			2,720	5,000			5,700	
			3年度目(23)	2,520			2,520				2,500	

- 注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
 2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。
 3 「事業費」、「財源内訳」及び「交付金要望額」欄は実績額又は予定額を記載すること。
 4 その他記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	プロジェクト推進事業	・町や関係団体・民間・住民などで構成する協議会を設置し、プロジェクトの推進管理・フォローアップを行う。	初年度(21)	事業内容の検討、協議、事業の調整(①6/8②7/7③7/14④11/13)協議会の開催	【効果】 ・観光協会が中心となり津別町の資源(自然・素材・人)の融合性を図る機会を得た 【課題】 ・森林セラピーを中心とした観光に結びつけた協議会構成が必要	実施主体が参加している団体との調整を図り、裾野の広がりを意識した取り組みとしたい。
			2年度目(22)	事業内容の検討、協議、事業の調整(①平成22年5月17日②平成22年10月8日)協議会の開催	【効果】 ・昨年に引き続き事業内容の豊富化が図られた。 【課題】 ・集客に向けた取り組み。協議会でその重要性が確認された。	実施主体が参加している団体との調整を図り、裾野の広がりを意識した取り組みとしたい。
			3年度目(23)	事業内容の検討、協議、事業の調整(①平成23年4月12日②平成23年4月22日③平成23年5月12日④平成23年6月13日⑤平成23年11月7日)協議会の開催	【効果】 ・昨年に引き続き事業内容の豊富化が図られた。 ・NPO法人の立ち上げにつながることができた。 【課題】 ・集客に向けた取り組み。協議会でその重要性が確認された。	NPOが実施主体となるべく近隣市町村を巻き込みながら町内団体との調整を図り、裾野の広がりを意識した取り組みとしたい。
2	観光人材育成事業	・講師の招へい、観光関係者や住民向けホスピタリティ研修を行う。 ・ホテル事業者や民宿事業者のサービス向上を図るため、コンサルタントによる経営・サービス診断を行う。 ・本プロジェクトの継続的事業展開を進める	初年度(21)	・講師の招へい、観光関係者や住民向けホスピタリティ研修として平成21年12月8日中央公民館にて「おもてなしの心で迎える」観光人材育成セミナー実施。講師：エコジャーナリスト林美香子氏を招聘町民150人が参加、他の町の例を示しこれからの観光の「おもてなし」の大切さを訴え参加者の共感を得た。	【効果】 ・当町は観光地であると言う認識が不足しており今後の受け入れの心構えが学習できた。 【課題】 ・観光事業者(ホテル、民宿)を中心にグリーンツーリズム協議会とも歩調をとり町全体で受け入れについて取り組む必要がある	観光事業者を中心にグリーンツーリズムとも連携し農村体験と森林セラピー事業の連携し、人的確保と育成をめざす。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
		ための専門家育成。	2年度目 (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホテル事業者や民宿事業者のサービス向上を図るためスタッフ教育(語学)研修を全5回(①平成23年1月25日②年2月1日③2月8日④2月15日⑤2月22日受講者延べ45人)行った。 ・ プロジェクトの継続的事業展開を進めるための専門家育成のため「体験型観光講演会」(平成23年2月14日受講者43名)を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学 【効果】 ・ 5回の講座で語学を通じた外国人のおもてなしの心構えができた、この間熱心に受講された従業員の中には目覚ましい語学の向上できた従業員が誕生した。 【課題】 ・ 今後は自己学習を重ねいつでも外国人に対する対応ができるよう事業者ともども取り組まなければならない。 ・ 講演会 【効果】 ・ 全国の観光地ではない町での取り組みが紹介され、津別町も体験型の観光が十分に可能であることが講演会参加者、プロジェクトメンバーに伝わり自信と励みになった。 【課題】 ・ 今後はプロジェクトメンバーやグリーンツーリズム、セラピーガイド、ホテル民宿関係者と連携し具体的体験型観光のプログラムを進めていく必要がある。 	<p>観光事業者を中心にグリーンツーリズムとも連携し農村体験と森林セラピー事業との連携により、人材確保と育成をめざす必要がある。特に観光メニューなど津別町だからできる「体験型観光」であることから、本観光人材育成事業を通じ、人材育成についても積極的に進めたい。</p>
			3年度目 (23)			

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
3	森林セラピー事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本町上里地区において、森林セラピー基地の指定を受けるため、フィールドの生理・心理・物理実験を行う。 ・ 体験型観光を進めるため「津別観光マイスター（ガイド）の登録」や「森林セラピーガイド」等アウトドアガイド資格者の誘へいや資格取得研修を行う。 ・ 裸足で川遊び体験、ホーストレッキング体験、鳥笛作製体験 	初年度（21）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピー基地事前調査として 平成21年7月30日「森林セラピー効果について」講師：森林総合研究所室長香川隆英氏を招聘し講演会を開催、またセラピー基地候補地の視察を実施し適正を確認した。 ・ 体験型観光を進めるため「津別観光マイスター（ガイド）の登録」やアウトドアガイド資格者の誘へいや資格取得研修を行うとして <p>① 平成21年9月2日～6日「手づくりカヌー体験」を旧相生小学校で実施、最終日にチツミケツ湖で進水式を行う。受講者15名</p> <p>② 平成22年3月4日「森林セラピーガイド養成研修会」講師：NPO法人知床自然学校理事長関口均を招聘し研修会を林業研修会館で実施、町内外100人が参加、6月6日試験に向けガイドを目指す。</p>	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピーに対する理解が深まった <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津別町としての長期的展望にたった森林セラピーの特色を考える必要がある。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー体験を通じ自然のダイナミックさを感じることで有意義なプログラムであることが実感できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な指導者いることが必須、参加者最低10名必要。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピーに対する関心が高く、特に最近の女性のアウトドアに対する関心の高さから、女性の参加者が多かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド養成と併せてガイド組織の立上が今後の課題である。 	<p>平成22年度森林セラピー基地認証を得るため「実証試験」を実施し、セラピー基地の体制を図る</p> <p>今後の展開として森林セラピーガイド組織の確立と「体験メニュー」の組み立てを図っていく。</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目 (22)	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地周辺調査・森林セラピー基地の指定を受けるため、フィールドの生理・心理・物理実験を行った。(平成22年7月12日～14日) 森林セラピーガイドブックの作成(編集会議①平成22年12月14日9人②平成23年1月11日14人) 体験型観光を進めるため「森林セラピーガイド」研修を行なった。(セラピー基地調査研修、1名)(森林セラピーガイド研修①平成22年5月29日、44名②平成23年3月12日～13日)(体験型観光研修平成23年3月18日～20日、1名) 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地認証の実証試験実施により本計画の中心的課題が決定付けられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺整備とガイド組織の立ち上げ。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 推進協議会と自然体験実践者によりガイドブックが作成された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドブックの有効活用を図っていく。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピーガイド研修や体験型観光研修を通じ津別町オリジナルなガイドのあり方を研修できる機会となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型観光の良し悪しを決定するのはガイドの力量であり、今後とも充実した質の高いガイド養成を図っていく必要がある。 	<p>森林セラピー事業の中核は今後人材養成が重要で体験型観光のためのガイド養成(森林セラピストの養成)を中心により質の高いガイド養成に取り組む。(リピーターはガイドの力量が大きい)</p>
			3年度目 (23)	<ul style="list-style-type: none"> 体験型観光を進めるため「森林セラピーガイド」研修を行なった。(森林セラピーガイド研修①平成23年5月15日、24名②平成23年5月29日35名③平成24年3月24日～25日28名) 海外マスコミに対する森林セラピーの紹介活動を行った。 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピーガイド要請を通じNPO法人の組織化ができ、継続的な今後の運動の拠点を作ることができた。森林セラピーガイド研修を通じ津別町オリジナルなガイドのあり方を研修できる機会となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の森林セラピーの良し悪しを決定するのはガイドの力量であり、今後とも充実した質の高いガイド養成を図っていく必要がある。 	<p>新たにできたNPO法人「森のこだま」を中心により一層の事業展開が求められます。森林セラピー事業の中核は今後人材養成が重要で体験型観光のためのガイド養成(森林セラピストの養成)を中心により質の高いガイド養成に取り組む必要があります。(リピーターはガイドの力量が大きい)</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
4	津別町の「食」「食加工品」「木工品」開発事業	オリジナルな食・木工などの開発事業	初年度(21)	<ul style="list-style-type: none"> 山林に放置されている木の幹や枝を使った自然味を生かし、デザイン性を重視したアートな調度品(椅子・机・テーブル等)のオンリーワン作品の作製検討・開発として大西重成氏によるアートな調度品の作製が行われ10作品が出来上がり、今までにない自然を生かした新たな素材として注目が期待される、また常設展示の環境ができたことで直接目に触れることができ新たな分野への足がかりとなった。 リコーダーバスの開発として山上木工により地元の加工技術をもって、バスリコーダーを開発した。今後地元の活汲小中学校に寄贈し今後の演奏活動で利用を図る。 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然な状態の木の枝などを組み合わせたアートとの融合による新たな調度品として開発したことは今後の新たなソースとなる可能性が高い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示場やWEB利用による周知が必要である。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木の町の今後の音楽・楽器分野における木の素材を生かしたきっかけとなった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器であることからその精度を高めることが必要で、今後専門家のアドバイスが必要である。 	津別町の素材を意識した加工品の検討を意識して取り組む

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			初年度(21)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師を招へいし、地元食材の安心・安全と健康に配慮した料理のメニュー化の検討・開発として林美香子氏(エコジャーナリスト)にアドバイスを受けながら「森林セラピー弁当」を中心とした製作を行い、器・トレイ・レシピ集の作製し試食会を開催した ・ 地元農畜産物を活用した加工品の検討・開発として 地元の素材を生かした加工品として道の駅「あいおい」において「クマヤキ」を開発した 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の素材を使ったことで、地元食材の再発見ができた。 ・ 安心安全を地元食材で実現できることが実証され、町内の旅館・ホテル・民宿などで提供可能で今後の森林セラピーに一役買うことが期待される。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピーのプログラムとして活用の検討 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の素材(原材料と人)の利用により新たな食加工品ができたことにより、道の駅の利用者が確保できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「クマヤキ」の質の向上が課題である。 	
			2年度目(22)			
			3年度目(23)			

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
5	津別町森林セラピー観光PR事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木の幹や枝を使った自然味を生かし、デザイン性を重視したアートな調度品（椅子・机・テーブル等）のオンリーワン作品のカタログ・写真集の作成 ・ 情報誌やインターネットなどを活用し、津別町の自然と食の魅力をPR ・ 旅行代理店訪問やメディア広告・航空機利用による団塊の世代などを対象にした小規模ツアーや夏場以外の観光客誘致運動の展開 外国人に対する通訳ガイド 	初年度(21)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木の幹や枝を使った自然味を生かし、デザイン性を重視したアートな調度品（椅子・机・テーブル等）のオンリーワン作品のカタログ・写真集の作成として ・ カatalog・写真集を作製し展示以外において、新たな調度品（癒しの実感できる家具）として発表の機会を得た ・ 情報誌やインターネットなどを活用し、津別町の自然と食の魅力をPRとして 札幌国際大学と提携しホームページの作製をし、津別の自然をPRすることができた。 ・ 旅行代理店訪問やメディア広告・航空機利用による団塊の世代などを対象にした小規模ツアーや夏場以外の観光客誘致運動の展開として 平成22年3月24日～26日、冬の体験メニューを中心にモニターツアーを実施して、都会のマスコミ・旅行会社の方の取材を受け当町の魅力の発信と今後の観光事業への助言をいただいた。 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アートな調度品写真カタログは初めてのこともあり今後の展開が注目されている。（雑誌・家具業界） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大量生産でなく「オンリーワン作品」なので広がっていくためには時間を要する。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設ホームページにより一層津別の写真画像によって広く知られる機会を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶えず画像の更新に注意をし、画像の蓄積に努めながら、人的な育成も図っていく必要がある。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験型観光を進めるうえで実際の旅行会社・マスコミの方の参加を得進む方向が確認できた、本町の場合メニューが豊富であることも確認できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピー同様ガイド組織の立ち上げ、グリーンツーリズムとの連携が必要である。 	森林セラピーと観光（滞在型）を図る意味でモニターツアーをきっかけをつくり本町における体験観光を目指す。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			2年度目 (22)	<ul style="list-style-type: none"> 旅行代理店訪問やメディア広告業界に対し観光客誘致運動の展開を行った。(平成22年11月1日～4日南アルプス市・船橋市に対する誘致運動、平成23年1月17日～19日札幌市内観光関連マスコミに対する誘致運動) 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型観光を進めるうえで実際の旅行会社・マスコミの方に説明ができ津別町の意気込みを伝えられ関係者の今後の協力も確認できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型観光プラン(森林セラピーを含めた)を今後示し具体的に集客に集中していきたい。 	<p>体験型観光に集中し、森林セラピーと結びつけたメニューを豊富化しツアーの実現を目指す。</p>
			3年度目 (23)	<ul style="list-style-type: none"> クリンソウフェスティバルを中心とした集客のためマスコミ・広告媒体を利用し、交通機関も確保しながら観光客誘致運動の積極的展開を行った。(平成23年6月期間中) 平成23年11月17日～19日札幌市内観光関連マスコミに対する誘致運動) 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> クリンソウフェスティバル実施において集中的に行うことができPR効果も「森林セラピー山ガールシンポジウム」やオホーツク観光連盟の協賛など、裾野の広がりが見え津別町の意気込みを伝えられ関係者の今後の協力も確認できた。 森林セラピー基地内にある町有宿泊温泉施設において、前年同月対比において、宿泊者数で49%、入浴者数82%、売り上げで40%の大幅な上昇を見せた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー体験型観光プランを提案していきたい。 	<p>森林セラピーに集中し、森林セラピーと結びつけたメニューを豊富化しツアーの実現を目指す。</p>

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
6	イベント・交流事業	・エリヤ内で行われる「紅葉マラソン大会・クリンソウまつり・コンサート」開催と道内外との参加者交流	初年度(21)	<ul style="list-style-type: none"> エリヤ内で行われる「紅葉マラソン大会・コンサート」開催と道内外との参加者交流として平成21年10月4日フォーク歌手でマラソンランナーの高石ともや氏を招きマラソンとコンサートの融合させ森林浴と健康増進を目的に「つべつ紅葉マラソン大会」の参加し、癒しの空間コンサートを実施した。(参加者300人) 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンサート実施で「森林セラピー」の認知度を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも、「森林セラピー」の認知度を高める必要からイベント事業が必要である。 	「森林セラピー」の認知度を高める必要からより森林と癒しの効果が高まるイベントが必要である。
			2年度目(22)	<ul style="list-style-type: none"> 「クリンソウまつり・癒しの空間コンサート」(平成22年6月12日～13日及び20日、1,000人) 森林セラピー基地を目指して「癒しの空間・春を待つコンサート」(平成23年3月19日) 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンサート実施で「森林セラピー」の認知度を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも、「森林セラピー」の認知度を高める必要からイベント事業が必要である。 	「森林セラピー」の認知度を高める必要からより森林と癒しの効果が高まる継続的イベントを行う。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
			3年度目 (23)	<ul style="list-style-type: none"> 「クリンソウフェステバル・癒しの空間コンサート・クリンソウまつり」の実施。(平成23年6月11日～26日及び20日、の期間中参加者4,500人) 昨年実績の4倍 	<p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地にふさわしいコンサート実施で「森林セラピー」の認知度をさらに高めることができた。期間中参加者4,500人で昨年実績の4倍となった。 森林セラピー基地内にある町有宿泊温泉施設において、前年同月対比において、宿泊者数で49%、入浴者数82%、売り上げで40%の大幅な上昇を見せ、その後も昨年対比を上回り認知度が森林セラピーによって高まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも、「森林セラピー」の認知度を高める必要からイベント事業が必要である。 	<p>利用者のニーズをつかみ、イメージアップを図りながら、「森林セラピー」の認知度を高める必要からより森林と癒しの効果が高まる継続的イベントを行う必要があります。また、近隣市町との連携した取り組みが必要です。</p>

- 注 1 (1)に記載した番号に対応する事業について、プロジェクトの期間を通じて、実施状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。
- 2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。